

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	パークアンドライドの推進事業							
1-2 担当	部	経済建設部	課 又は施設	都市計画課	係	都市施設係	評価票作成者	街路・用地担当係長 堀田 彰
1-3 総合計画における施策の体系	節	都市基盤・産業振興 「いきいきとした賑わいと活力あふれるまちづくり」			基本施策	交通対策	コード	3 1 2
	項				単位施策(中)	交通結節点の改善	コード	3 1 2 3
		道路・交通			単位施策(小)	パークアンドライドの推進	コード	3 1 2 3 3
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	駅周辺個人駐車場の駐車登録台数 500台	意図（対象を事務事業によってどのような状態にするのか）		環境、交通渋滞緩和のため、自動車利用の抑制と公共交通機関の利用促進を図るため、民間駐車場及び大型店舗を最大限活用したパークアンドライドを推進する。			
1-5 事務事業の内容	名鉄前後駅、豊明駅、中京競馬場前駅周辺の民間駐車場及び店舗に対しパークアンドライド駐車場の推進を働きかける。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識	
	平成18年度	名古屋都市圏P&R推進協議会に2回参加した。	環境対策、交通渋滞緩和対策に必要である。		特に市民から意見や相談はない。	
	平成19年度	名古屋都市圏P&R推進協議会に3回参加し、P&Rの概要及び駐車場登録制度等について確認した。	"		H19.8に市営月ぎめ駐車場をスタートしたところ、即17台が満車となったこと及び満車後も問合せがあることからニーズはあると考えられる。	
	平成20年度	名古屋都市圏P&R推進協議会に参加し、P&Rの概要及び駐車場登録制度等の必要性を認識した。	都市部の交通渋滞解消と環境対策上必要であるが、この地区道路の環境が整っている弊害から需要の高まりが無い。		駅周辺への駐車場利用に関して電話問い合わせも多く、駐車場登録制度の整備が望まれている。	
	平成21年度	名古屋都市圏P&R推進協議会に参加し、公共交通機関利用の重要性を認識した。	世界的な景気低迷で市営有料駐車場の利用者減が顕著であるが、P&Rの利用等が促進される状況にある。		長時間駐車でも安価な施設利用が望まれている。	
	平成22年度	環境問題から公共交通機関へのシフトが望まれており、長時間でも安価な駐車場が望まれている。その中で、遊休となっていた豊明駅南の整備予定地に月極駐車場を設置することで、駅利用者の増加を図った。				
	平成23年度	パークアンドライドとして豊明駅南の月ぎめ駐車場の利用者が増大した。				
	平成24年度					
	平成25年度					
平成26年度						
平成27年度						

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明
	P&Rの駐車登録台数の達成率		50(%)	100(%)	P&Rとして市民が利用するための駐車場所有者への働きかけを表す指標

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)	0	1,477	0	0	3,717	0				
	人件費 c(千円)	134	133	132	129	1,253	491				
	合計コスト d(b+c)(千円)	134	1,610	132	129	4,970	491				
	単位コスト d/a(千円)	1台当たり0	1台当たり95	1台当たり8	1台当たり8	1台当たり76	1台当たり8	当たり	当たり	当たり	当たり

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → [条件] a(台数)=年度別登録台数、b(千円)=年度別事業費、成果指標(%)=(a+前年までの登録台数)/500台
 H21実績 成果指標=[17+0]/500(台)=3.4% 人件費=6,457(千円)×2(人)×0.01=129(千円)
 H22実績 成果指標=[17+48]/500(台)=13% 人件費=6,266(千円)×2(人)×0.10=1,253(千円)
 H23実績 成果指標=[17+48]/500(台)=13% 人件費=6,137(千円)×2(人)×0.04=491(千円)

		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
2-4 成果指標に対応する実績と達成度の推移	指標対応実績 (%)	2.4%	3.4%	3.4%	3.4%	13.0%	13.0%				
	後期目標値に対する達成度 (%)	2.4%	3.4%	3.4%	3.4%	13.0%	13.0%				

3 事務事業の自己評価結果

3-1 評価結果 (アウトカム自己分析)		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
単年度担当課評価		B	B	B	B	A	A				

4段階評価結果 A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 B : 事務事業の実手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 D : 事務事業の廃止が相当

判断の基準
 必要性(必要な事務事業であるか)
 公共性(公が実施する意味があるか)
 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3-2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識		次年度に向けて改善する取組み		事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価	
	平成18年度	店舗・マンション等利用変更による駐車場の減少が課題	私有地の駐車場としての有効活用をしていく。	駐車場をどのように増やしていくか計画の検討を行なった。		
平成19年度	〃	私有地の駐車場所有者へ登録を積極的に図るため、税金等の控除など手法を研究する。	名古屋都市圏P&R推進協議会に参加し、P&Rの概要及び駐車場登録制度等について確認した。			
平成20年度	世界同時不況の中、駅周辺駐車場を利用して鉄道に乗換える状況が多く見受けられる。	パークアンドライド制度の促進以外に駅周辺の月ぎめ駐車場の契約台数を把握し、鉄道利用者の掘出しをする。	昨年同様、名古屋都市圏P&R推進協議会に参加し駐車場登録制度を再認識した。			
平成21年度	景気上昇が見受けられない現状を把握し、駅周辺の駐車場の再調査が必要である。	既存駅施設の乗降客数と移動手段を目視調査し、鉄道利用者の動向を把握する。	豊明駅周辺の契約台数を把握し、月ぎめ駐車場設置の指標とした。			
平成22年度	豊明駅南月極駐車場設置に伴い、広報や新聞広告等への掲載することで契約率の向上に努めた。景気動向に左右されるが、社会変化に対応できるよう心掛ける必要がある。					
平成23年度	前後駅南は満車であるが、豊明駅南は広報や新聞広告に掲載で契約率が若干上昇しているため広報活動を継続したい。駐車場利用は、景気動向に左右されるため社会情勢を的確に捉えるよう心掛ける必要がある。					
平成24年度						
平成25年度						
平成26年度						
平成27年度						

4 事務事業の総合評価結果

4-1 総合評価の結果		結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度	B	会議の参加だけでなく、事業の具体的な施策について検討する必要がある。	
平成19年度	B	パークアンドライドのPRを積極的に行い、利用促進を図ること。	
平成20年度	B	パークアンドライドのPRを積極的に行い、利用促進を図ること。	
平成21年度	B	パークアンドライドのPRを積極的に行い、利用促進を図ること。	
平成22年度	A	継続して事業を進めること。	
平成23年度	A	継続して事業を進めること。	
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			